

## 【8 神崎市 Kanzaki City】



脊振(せふり)山の山頂から

神崎市では、空気がよく澄んだ日には、市の中央部にある吉野ヶ里歴史公園(吉野ヶ里遺跡)や日の隈山公園、土器(かわらけ)山(別名:八天山)や仁比山(にいやま)公園、市の北端にある脊振山などから、佐賀平野・有明海越しに“北面の雲仙岳”が眺望できます。

隣の吉野ヶ里町との間に広がる吉野ヶ里遺跡(国指定の特別史跡)は、弥生時代の約700年間(紀元前5世紀～紀元3世紀)の歴史が見られる国内最大級の遺跡で、特に紀元1～3世紀に発達した大規模な環壕集落が有名です。現在、環壕集落の建物の復元が行われているところですが、実は建物配置に中心線があることが発見され、その中心線は、主要な建物群(北墳丘墓～北内郭主祭殿～祭壇)を通して約60km先の雲仙岳に向かっているのです。これは、約2000年前の集落の人々が、雲仙岳を眺めながら建物をどこに配置するか決めていったことを示唆しており、有明海の奥にそびえる雲仙岳は古代からランドマーク(目印)として機能していたと言えます(↓)。

川上金立県立自然公園に指定されている日の隈山公園と土器山は、山頂からの展望が良好で、雲仙岳が眺望できます。仁比山公園にある仁比山地蔵院(旧護国寺)は、雲仙岳の温泉山満明寺(701年開創)と同じく、僧・行基によって開かれたとされますが(729年開創)、この仁比山からも雲仙岳が眺望でき、当時の行基の思想に思いを馳せることができます。この仁比山の一角にある国指定の名勝“九年庵”は、明治時代の実業家・伊丹弥太郎の別邸・庭園で、当時の名人の和尚が九年かけて作り上げたものですが、実は、佐賀平野・有明海・雲仙岳を借景としたスケールの大きな庭園で、空気が澄んだ日には木々の間から雲仙岳が眺められます。

脊振北山県立自然公園に指定されている脊振山の山頂からは、北には博多湾、南には有明海越しの雲仙岳が望めます(↑)。脊振山や土器山からは、阿蘇山も眺望できる日があり、阿蘇山と雲仙岳の間の歴史的な大三角形(※阿蘇地域のページ参照)を視覚的にイメージすることも可能です。実はこの脊振山と雲仙岳は、ともに1300年以上の山岳信仰の歴史を有し、山麓の豊富な湧水が350年以上の手延べ素麺(島原素麺と神埼素麺)の歴史を育んだ、という点で共通しており、風土の類似性が感じられます。脊振山系から流れ出して市内を潤す城原(じょうばる)川の水は、市南端で筑後川に合流し、有明海に流れ込みますが、全国一の規模を誇る有明海の干潟の泥は、かつての阿蘇山の大噴火による噴出物を筑後川が日々流し込んでいるもので、その泥が外洋に流れ出さないのは、雲仙岳そびえる島原半島が有明海の水の出入口を狭めているためです。

雲仙岳の様々な表情を探しながら、神崎市内を旅してみませんか？

●神崎市の観光情報はこちら ⇒ 神崎市観光協会 <http://kanzaki.sagan.jp/>



吉野ヶ里歴史公園から